

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 (下記ご注意ご参照)

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】  
株式に関するお手続き用紙（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等）のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。  
TEL 0120-244-479 (通話料無料)  
インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場証券取引所 大阪証券取引所ヘラクレス市場 ジャスダック証券取引所  
電子公告により行う。  
公告掲載URL <http://www.lachd.co.jp>  
公 告 の 方 法 ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて  
株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。  
なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

単元未満株式の買増・買取請求について  
単元未満株式(当社の場合、100株に満たない株式)を所有される株主様には、単元未満株式の買増・買取の2つの制度がございます。株主様のご所有状況に合わせてご利用ください。

- **買増制度**  
お手元の単元未満株式と合わせて1単元(100株)となるように、当社に対して単元未満株式の売り渡しを請求できる制度。
- **買取制度**  
お手元の単元未満株式を、当社に対して時価でご売却いただける制度。

具体的なお手続きにつきましては、株券を証券会社に預け入れしている場合か、あるいは証券会社を通じて株式会社証券保管振替機構に預託されている場合は、お取引の証券会社にお問い合わせください。  
それ以外の株主様は株主名簿管理人連絡先へお問い合わせください。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。  
お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.e2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL: 03-5777-3900(平日10:00～17:30) MAIL: info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 3857

いいかぶ 検索 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールにより URL自動返信 kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

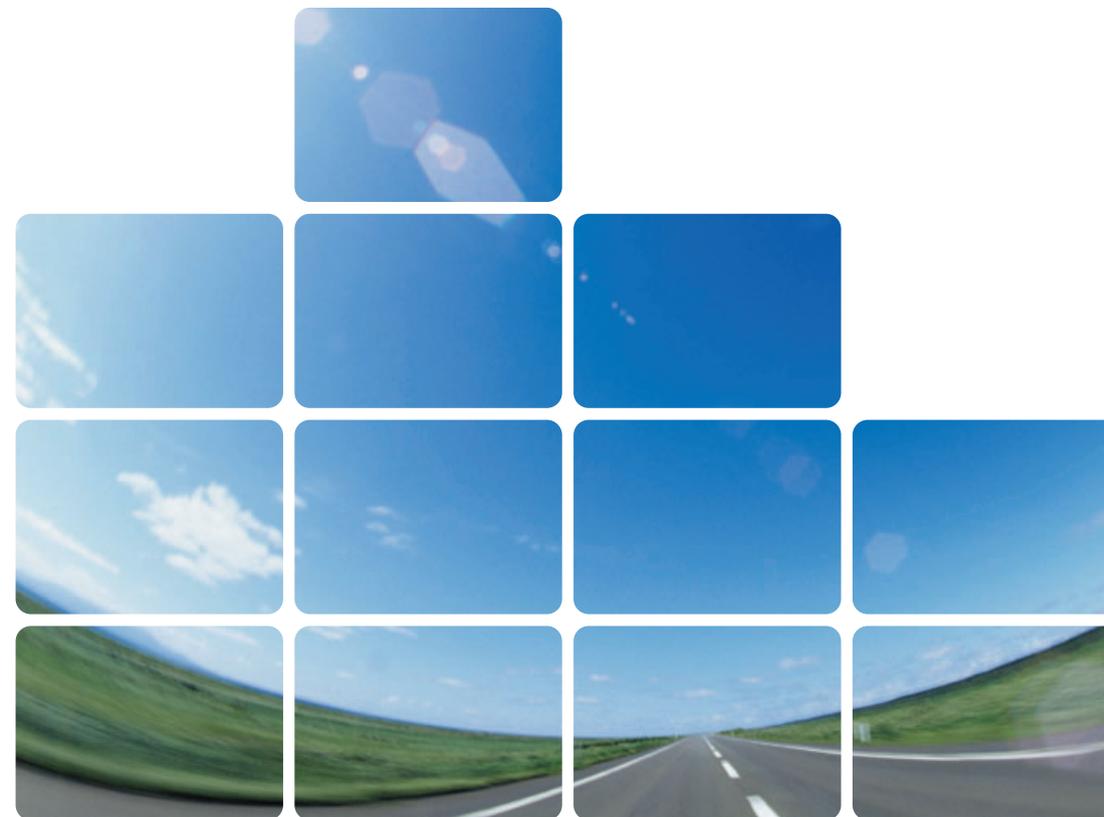
- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。
- ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

ラックホールディングス 株式会社

〒105-7111 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター11階  
<http://www.lachd.co.jp>  
〈お問い合わせ〉広報室 Tel:03-5537-1406 E-mail:lac-ir@lac.co.jp



Business Report Vol.2



ラックホールディングス 株式会社

## 企業理念

進化し続けることで成長し、持続可能性の高い経営により、  
社会にとってなくてはならない存在を目指します。

人材の多様性を尊重し、個々の能力を  
最大に生かせるよう努力します

お客様・株主・社員の  
尊厳を尊重します

独自文化の創造発信により、  
美しく豊かな人間社会に貢献します



## ビジョン

高度な情報技術によりサービスを提供し、  
重要な社会インフラを支える企業

コーポレートガバナンスの充実とコンプライアンス重視の経営

お客様中心の視点でより価値のあるソリューションを提供

高度な情報技術による先進性の追求

社員がいきいきと楽しく働く企業

健全な成長を持続する企業

国際企業への飛躍

設立から1年。  
企業価値向上を目指し、事業基盤の強化・拡充につとめております。

株主ならびに投資家の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ラックホールディングス株式会社の第2期中間報告書をお送りするにあたり、  
謹んでご挨拶申し上げます。

当上半期は、米国のサブプライムローン問題を発端とした金融市場の混乱に加え、  
原油および原材料価格の高騰が一段と進んだことや景気悪化の懸念による株価の低迷など、  
依然として先行きが不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの属する情報サービス業界を取り巻く環境も、企業のIT投資  
に対する姿勢も一段と慎重になり、競争激化の状況が続いております。

このような状況において当社グループは、グローバル展開の一環として本年  
5月に中国でのアウトソーシングビジネスを展開するため、台湾ウィツ社に  
資本参加するとともに同社に役員を派遣し、7月には韓国における情報セキュ  
リティサービス事業を展開するために韓国ラック社を設立いたしました。  
さらに(株)アイティークルーを設立し、民事再生手続中であったニイウス(株)  
およびニイウスコー(株)よりディーラー事業の継承を行い、当社グループの  
新たな事業領域として8月より事業を開始いたしました。

経済環境が不安定にあるいまだからこそ、事業基盤の強化・拡充につとめて  
当社企業理念である「進化し続けることで成長する持続可能性の高い経営」  
の礎を築く施策を行いました。

引き続きグループ全社一丸となって日々の業務に精励し、企業価値の  
向上につとめてまいれる所存です。

皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い  
申し上げます。



代表取締役社長

三柴 元

## 進化し続けるラックホールディングスグループ

### グループ事業ドメイン

事業領域の拡大と継続的な収益確保に向けた取り組みを積極的に推進してまいります。

#### ラックホールディングスグループ

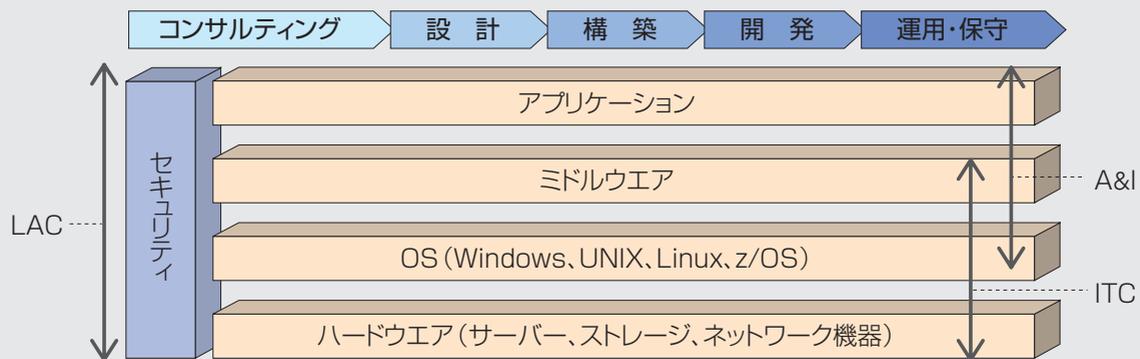


SIS事業：システムインテグレーションサービス事業

SSS事業：セキュリティソリューションサービス事業

### 事業ポートフォリオ

グループ全体としてポートフォリオが拡大し、より大きなビジネス提案やクロスセリングが可能になる



ITC：株式会社アイティークルー

## グループ事業戦略



### 中期重点施策

#### 経営基盤の強化

リスクマネジメントの展開による高品質経営の推進  
 経営マネジメントシステム(コンプライアンス体制)の強化  
 財務体質の強化とキャッシュ・フロー重視の経営推進  
 環境への配慮と社会貢献への積極的な取り組み

#### 規模の拡大とポートフォリオ強化

選択と集中によるコア事業への経営資源集中  
 積極的なM&Aと事業提携の促進  
 ストック型ビジネスの推進

#### 付加価値と生産性の向上

継続的なイノベーションと生産性向上実現に向けたBPRの推進  
 ソリューション事業の推進と研究開発の強化  
 グループ経営における効率化推進のための社内ITシステム投資

#### 人材の育成

リーダーシップ教育とプロフェッショナル教育の強化  
 多様な人材確保と多様なワークスタイルの推進  
 人間力の強化

#### グローバル展開

海外進出日本企業向けのサービスビジネス強化  
 グローバルなSIベンダー(台湾ウィツ社)との連携強化  
 海外現地法人(韓国ラック)による  
 韓国内の情報セキュリティビジネス推進

コーポレートガバナンスとコンプライアンスを基本におく  
 継続的イノベーション活動による持続可能性の高い経営の推進

## 第2四半期を振り返って

### (株)アイティークルーのディーラー事業、順調にスタート

当上半期の業績は、(株)アイティークルーが連結対象に加わったことから、売上高はディーラー事業が大きく寄与し110億33百万円(前年同期比\*21億60百万円増)、売上総利益が26億3百万円(同3億21百万円増)となりましたが、売上総利益率は主にサービスを提供するSIS事業、SSS事業は25.6%(同0.1%減)とほぼ横ばいであるものの、ディーラー事業はHW/SW販売を中心とするビジネスモデルであるため、グループ全体として若干低下

\*前年同期比について:当社の設立は平成19年10月1日ですが、仮に平成19年4月1日から平成19年9月30日を対象期間として連結決算を行なった場合の想定値との比較を示しております。

しました。

また、当社グループの共通インフラとしての社内ポータルシステムの整備、新入社員114名の採用、さらに(株)アイティークルーの設立など先行投資を積極的に行ったため、販売費及び一般管理費が前年同期に比べ6億55百万円増加したことにより、営業損失は78百万円、経常損失は1億30百万円、四半期純損失は2億43百万円となりました。

### SIS事業

開発サービスは、金融系を中心に既存顧客からの継続案件や、保険関連システムのコンサルティングおよび開発などの受注が堅調に推移しましたが、新規案件の受注が伸びなかったこと、第3四半期以降に売上計上される仕掛案件が増加したこと、および人材派遣業向けシステム開発における一部トラブル案件対応のため、要員を追加投入したことによる機会損失の発生などにより、売上高は60億37百万円(前年同期比3億79百万円減)となりました。

ソリューションサービスは、A&Iデータセンターにおける継続案件の受注は順調に推移しましたが、SAP

関連ソリューション、Notes関連ソリューション、EZ Source for SAPなど新たに商材開発を進めたソリューションサービスの受注が遅延したことなどにより、売上高は2億4百万円(同1億19百万円減)となりました。

関連商品は、大型請負案件のインフラ構築に伴うサーバー機器やネットワーク機器の販売などにより、売上高は3億円(同26百万円増)となりました。

この結果、SIS事業の売上高は65億42百万円(同4億72百万円減)となりました。

### SSS事業

コンサルティングサービスは、顧客ニーズが高度化・多様化するなか、常駐型サービス「SMSサービス」において要員調達の遅れが発生したことや、既存のコンサルティングサービスにおいても要員稼働率が低下したものの、緊急対応サービス「個人情報119」の受注が増加したことなどにより、売上高は5億80百万円(前年同期比59百万円増)となりました。

構築サービスは、ログツールの設計・導入ソリューションの受注が増加しましたが、大型案件の受注に向けた提案準備とプリセールスに予想以上の工数がかかったこと、監視用機器の導入サービスを運用監視サービスに集約したことなどにより、売上高は49百万円(同45百万円減)となりました。

運用監視サービスは、大規模診断サービス案件の売上計上が第3四半期に期ずれしたものの、監視サービスの受注が堅調に推移したこと、企業のWebへの攻撃が引き続き増加傾向にあるなかで診断サービスの受注が好調であったことなどにより、売上高は10億17百万円(同2億26百万円増)となりました。

関連商品は、セキュリティ関連ソフトウェアから複数のセキュリティ機能を搭載した複合型アプライアンス製品への機器の入れ替え(マイグレーション)の受注が引き続き堅調に推移し、売上高は5億2百万円(同52百万円増)となりました。

この結果、SSS事業の売上高は21億49百万円(同2億92百万円増)となりました。

### ディーラー事業

平成20年8月1日より開始したディーラー事業においては、継承後の事業の早期立ち上げに注力し、信用不安による既存契約の解消を最小限にとどめる営業展開により、ほぼ全てのお客様との取引を継続することができました。

HW/SW販売では、金融系の既存顧客からの受注が予定どおり順調に推移し、売上高は7億29百万円となりました。

SEサービスでは、金融系の既存顧客からの継続案件の受注が順調に推移し、売上高は5億13百万円となりました。

保守サービスでは、契約継承への取り組みを積極的に推進し、売上高は10億97百万円となりました。

この結果、ディーラー事業の売上高は23億40百万円となりました。

■ 四半期連結貸借対照表 (要旨)

科 目	単位:千円	
	第2四半期末 2008年9月30日現在	前 期 2008年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	12,183,719	7,386,508
固定資産	11,146,805	4,076,011
有形固定資産	1,043,823	923,837
無形固定資産	5,974,855	1,545,688
投資その他の資産	4,128,126	1,606,485
<b>資産合計</b>	<b>23,330,524</b>	<b>11,462,519</b>

科 目	単位:千円	
	第2四半期末 2008年9月30日現在	前 期 2008年3月31日現在
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	11,271,195	4,135,762
固定負債	6,848,391	1,537,689
<b>負債合計</b>	<b>18,119,586</b>	<b>5,673,451</b>
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	5,376,760	5,883,589
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	3,675,859	3,675,857
利益剰余金	812,387	1,216,280
自己株式	△ 111,486	△ 8,548
評価・換算差額等	△ 171,506	△ 134,672
少数株主持分	5,685	40,151
<b>純資産合計</b>	<b>5,210,938</b>	<b>5,789,067</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>23,330,524</b>	<b>11,462,519</b>

当第2四半期より連結対象に加わった(株)アイティークルーが民事再生中のニイウス(株)およびニイウスコー(株)よりディーラー事業を継承したため、資産と負債が大きく増加しました。

主に、ディーラー事業の継承に伴う、のれん(無形固定資産)、繰延税金資産(投資その他の資産)等の固定資産の増加、それに伴う長期借入金(固定負債)、未払金(流動負債)等の負債の増加によるものであります。

また、ニイウス(株)およびニイウスコー(株)からの保守業務の継承に伴い、前払費用等の流動資産、前受収益等の流動負債が増加しました。

■ 四半期連結損益計算書 (要旨)

科 目	単位:千円	
	第2四半期累計期間 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日	
<b>売上高</b>	<b>11,033,506</b>	
売上原価	8,429,763	
売上総利益	2,603,743	
販売費及び一般管理費	2,682,250	
<b>営業損失 (△)</b>	<b>△ 78,506</b>	
営業外収益	34,812	
営業外費用	86,599	
<b>経常損失 (△)</b>	<b>△ 130,293</b>	
特別利益	5,576	
特別損失	12,312	
<b>税金等調整前四半期純損失 (△)</b>	<b>△ 137,028</b>	
法人税、住民税及び事業税	80,943	
法人税等調整額	25,646	
少数株主利益	367	
<b>四半期純損失 (△)</b>	<b>△ 243,986</b>	

	平成21年3月期 第2四半期連結累計期間	平成20年3月期
自己資本比率 (%)	22.3	50.2
時価ベースの自己資本比率 (%)	28.8	59.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	910.0	175.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	12.9	51.4
EBITDA (百万円)	318	2,509

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科 目	単位:千円	
	第2四半期累計期間 自 2008年4月 1日 至 2008年9月30日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	674,655	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,375,288	
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,404,387	
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4,435	
現金及び現金同等物の増加額	699,319	
現金及び現金同等物の期首残高	2,723,074	
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,422,394	

※自己資本比率:自己資本/総資産  
時価ベースの自己資本比率:株式時価総額/総資産  
キャッシュ・フロー対有利子負債比率:有利子負債/営業キャッシュ・フロー  
インタレスト・カバレッジ・レシオ:営業キャッシュ・フロー/利払い  
EBITDA:営業利益+減価償却費+のれん償却費

■ 会社概要

商号	ラックホールディングス株式会社
英文名	LAC Holdings, Inc.
所在地	〒105-7111 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター11F 電話(03)5537-1400(代表)
設立	2007年10月1日
資本金	10億円
従業員数	連結:1,575名 個別:60名

■ 役員

取締役会長 代表取締役社長 執行役員社長	三柴 元
取締役 常務執行役員	大阿久昌彦
取締役 常務執行役員	高梨 輝彦
取締役 執行役員	牧野 敏夫
取締役 執行役員	白石 通紀
取締役 執行役員	齋藤 理
取締役	中内 重郎
常勤監査役	畑 康徳
社外監査役	高井 健式
社外監査役	酒井 富雄
常務執行役員	米田 光伸
執行役員	伊藤 信博
執行役員	仲田 聡
執行役員	石崎 克彦
執行役員	平林 雄三

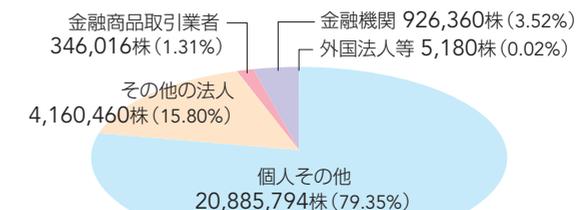
■ グループ全体図



■ 株式の状況

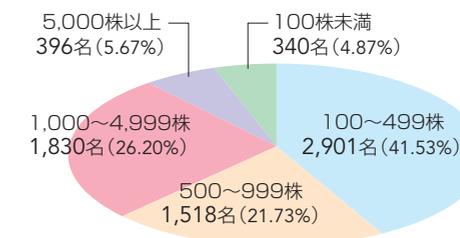
発行可能株式総数	100,000,000 株	
発行済株式数	26,683,120 株	
株主数	6,985 名	
大株主		
氏名または名称	所有株式数(株)	所有比率(%)
三柴 元	8,893,400	33.32
KDDI株式会社	1,414,200	5.29
三菱商事株式会社	870,000	3.26
ラックホールディングス従業員持株会	843,310	3.16
富士ソフト株式会社	735,000	2.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	700,000	2.62
中島 尚彦	388,200	1.45
株式会社 クレスコ	355,000	1.33
株式会社 フジスタッフ	321,000	1.20
本多 一成	275,190	1.03

■ 所有者別株式分布状況



(注)自己株式(359,310株)を除く。

■ 所有株式数別株主分布状況



ホームページのご案内

当社のホームページでは、当社および当社グループに関する情報をご覧いただけます。またIRページでは、財務情報やIRニュースなどを掲載し、情報開示の充実につとめています。



トップページ  
<http://www.lachd.co.jp>



IRページ  
<http://www.lachd.co.jp/ir/index.html>